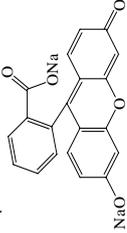
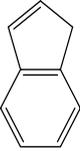
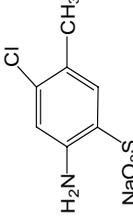
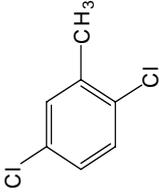
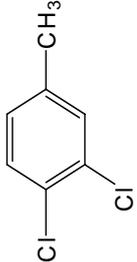
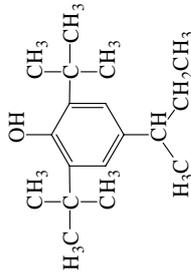


平成20年7月 既存化学物質点検（分解・蓄積）結果資料（第77回審査部会）

資料2-1

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定案 (0)内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1825	ジナトリウム=2-(6-オキシンド-3-オキソ-3H-キサンテン-9-イル)-ベンゾアート (518-47-8) 5-673 5-1416 	BOD: -2, 0, 1 (0)*1 TOC: 0, 1, 1 (0) HPLC: 1, 1, 1 (1)	有機物質の塩であるため測定不可 -0.67*2	1区: 0.27倍以下 2区: 2.7倍以下 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	難分解性 高濃縮性ではない	なし	1
1827	〔(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン (2210-79-9) 3-0574 	BOD: -3, -3, -2 (0)*1 TOC: 2, 3, 1 (2) HPLC: 91, 91, 90 (90) 被験物質の大部分が加水分解して、3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオールを生成し、残留した。	2.28 (フラスコ振とう法) 2.16*2	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性ではない	なし	4
1828	1H-インデン (95-13-6) 4-0580 	BOD: -6, -6, -4 (0)*1 HPLC: 0, 1, 1 (1)	3.02 (フラスコ振とう法) 3.25*2	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性ではない	なし	7
143B	4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4) 3-2024 	審議済 (難分解性) (平成19年10月26日) BOD: 0, 0, 2 (1) HPLC: -2, -1, -1 (0)	-	1区: <3倍 2区: <24倍 脂質含有率 開始前 8.2% 終了後 7.0%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	10
1201C	2,5-ジクロロトルエン (19398-61-9) 3-0078 	審議済 (難分解性) (平成19年10月26日) BOD: 0, 0 (0) GC: -2, -5 (0) Closed bottle法	3.83*2	1区: 1190倍 2区: 1160倍 脂質含有率 開始前 5.6% 終了後 6.0%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	12
1201D	3,4-ジクロロトルエン (95-75-0) 3-0078 	審議済 (難分解性) (平成19年10月26日) BOD: 0, 0 (0) GC: -3, 1 (1) Closed bottle法	3.83*2	1区: 1100倍 2区: 866倍 脂質含有率 開始前 6.1% 終了後 6.6%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	15

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定案 0内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1760	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-sec-ブチルフェノール (17540-75-9) 3-0540 	審議済(難分解性) (平成18年7月21日) BOD: -1, -1, -1 (0)*1 HPLC: 3, 2, 1 (2) 被験物質の一部が試験液から 炭酸ガス吸収剤に移行した。	6.43*2	1区: 32000倍 2区: 33000倍 脂質含有率 4.16% 開始前 5.34% 終了後	(難分解性) 高濃縮性	なし	18

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v1.67 SRC-LOGKOW for Microsoft Windowsによる計算値

*3 フラスコ振とう法による予備値

整理番号 K-1825 (5-673、5-1416)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
ジナトリウム2-(6-オキシンド-3-オキシンド-3#キサンテン-9-イル)-ベンゾアト [別名 アシッド エロー-73] (518-47-8)	事業対象年度 平成19年度 試験期間 19.10.3~20.2.1 試験装置 (標) ・ 揮 試験濃度 100 mg/L 被験物質 汚泥 汚泥 30 mg/L 本試験期間 4 週間	契約 年 月 日 試験期間 試験装置 標 ・ 揮 試験濃度 mg/L 被験物質 汚泥 汚泥 mg/L 本試験期間 週間	契約 年 月 日 試験期間 試験装置 標 ・ 揮 試験濃度 mg/L 被験物質 汚泥 汚泥 mg/L 本試験期間 週間
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状	試験結果	試験結果	試験結果
分子式 $C_{20}H_{10}Na_2O_5$ 分子量 376.27	BOD -2, 0, 1 (0)% TOC 0, 1, 1 (0)% HPLC 1, 1, 1 (1)%	間接 試験結果 間接	間接 試験結果 間接
純度*1 92.1%	外観 橙色粉末	審査部会 第77回	審査部会 第 回
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 7.9%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 300g/L以上(20°C) (フラスコ法) 対メタノール 10g/L以上	20年 7月 25日開催	年 月 日開催
融点 測定不可 (黒色に変化)	1-オクタノール/水分分配係数 有機物質の塩であるため 測定不可	判定	判定
沸点 測定不可 (黒色に変化)	加水分解性 pH4, 7, 9 加水分解性なし	備考	備考
蒸気圧 3.18×10^{-5} Pa 以下 (気体流動法, 80°C)	解離定数 有機物質の塩であるため 測定不可	1. 回収率 (水+被験物質)系 98.4% (汚泥+被験物質)系 99.0%	
密度		2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構	
LD50		3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	
IRチャートの有無 (有) ・ 無			
用途			
生産量*2 (16年) 未公表			
試料 購入先 東京化成工業			
経済産業公報発表年月日			

*1 HPLCによる。 *2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

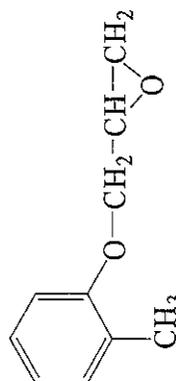
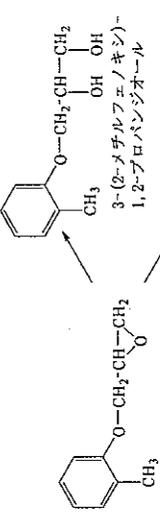
濃縮度試験	事業対象年度 平成19年度	濃縮度試験	毒性試験				
試験期間	19.10.1 ~ 20.2.7	試験期間	年 月 日				
試験装置(標・揮)	LC50値 >200 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)	試験装置 標・揮	依 頼				
水槽設定濃度 (mg/L)		LC50値	mg/L(hr)魚種()				
水槽設定濃度 ()		被験物質	分散剤				
第1濃度区	0.46	第1濃度区					
第2濃度区	0.046	第2濃度区					
第3濃度区		第3濃度区					
濃縮倍率	開始前 2.94% 魚種(コイ) 終了後 4.14%	濃縮倍率	開始前 % 魚種() 終了後 %				
6日後	9日後	13日後	21日後	28日後	日後	日後	日後
水槽濃度 (mg/L)	0.462	0.459	0.459	0.460	0.462		
倍率	≤0.27	≤0.27	≤0.27	≤0.27	≤0.27		
第1	水槽濃度 ()	倍率	倍率	倍率	倍率		
第2	水槽濃度 (mg/L)	0.0459	0.0457	0.0461	0.0457	0.0460	
倍率	≤2.7	≤2.7	≤2.7	≤2.7	≤2.7		
第3	水槽濃度 ()	倍率	倍率	倍率	倍率		
倍率	≤2.7	≤2.7	≤2.7	≤2.7	≤2.7		
審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催	審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催	審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催	審査部会 第77回 20年 7月 25日 開催				
判定結果	判定結果	判定結果	判定結果				
備考	備考	備考	備考				
<p>[ばく露期間中における濃縮倍率] 第1濃度区 0.27倍以下 第2濃度区 2.7倍以下</p> <p>[回収率] [定量下限濃度] 試験水* 100% 試験水 第1濃度区 11 µg/L 第2濃度区 1.1 µg/L</p> <p>供試魚 93.8% 供試魚 120ng/g</p> <p>[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構</p> <p>*試験液を直接分析機器に導入。</p>							

K-1825の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
3,3-ビス(<i>p</i> -ジメチル アミノフェニル)-6-ジ メチルアミノフラト (1552-42-7)		5-0129 (K-1338)	標準(4W) 1997年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 4, 0 (1)	難分解性 (1997)	1999年実施 5.27 (フラスコ脱脂)	>80.0 (48hr)	1999年実施 1区(50µg/L): 500~1300 2区(5µg/L): 636~1670 脂質含有率 4.1%	高濃縮性 ではない (1999)
2-(3-エチルイミノ オ-6-ジエチルアミノ- 3 <i>H</i> -キサンテン-9-イ ル)安息香酸=クロリド (3375-25-5)		5-1973 5-4056 (K-847)	標準(4W) 1987年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 3, 2, 0 (2) VIS(555nm) 8, 8, 5 (7)	難分解性 (1987)	1987年実施 1.9~2.0	33.9 (48hr)	1987年実施 1区(100µg/L): <0.2 2区(10µg/L): <1.7 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1987)
3',6'-ビス(ジエチル アミノ)-スピロ[イソ ベンゾフラン-1(3 <i>H</i>), 9'-[9 <i>H</i>]キサンテン]- 3-オン (509-34-2)		5-3090 (K-1762)	標準(4W) 2005年実施 BOD -3, -2, -2 (0)*1 TOC 2, 0, 3 (1) HPLC 1, 1, 1 (1)	難分解性 (2006)	6.63*2			
ジナトリウム=2-(6- オキシド-3-オキソ- 3 <i>H</i> -キサンテン-9- イル)-ベンゾアト (518-47-8)		5-1416 (K-1825)	標準(4W) 2008年実施 BOD -2, 0, 1 (0)*1 TOC 0, 1, 1 (1) HPLC 1, 1, 1 (1)		測定不可	>200 (96hr)	2008年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(0.46 mg/L): ≤0.27 2区(0.046mg/L): ≤2.7 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	
3-(<i>N</i> -シクロヘキシ ル- <i>N</i> -メチルアミノ)- 6-メチル-7-アエリ ノフルオラン (55250-84-5)		5-3631 (K-1655)	標準(4W) 2003年実施 BOD -8, -6, -3 (0)*1 HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (2003)	8.60*2	>15.0 (96hr)	2005年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(10µg/L): 2400 2区(1µg/L): 2500 脂質含有率 開始前 2.58% 終了後 3.80%	高濃縮性 ではない (2005)

*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1827 (3-0574)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
[(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン	事業対象年度 平成19年度	契約年月日	契約年月日
(2210-79-9)	試験期間 19.11.7~20.3.6	試験期間	試験期間
構造式 (示性式)・物理化学的性状	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
 <p>分子式 C₁₀H₁₂O₂ 分子量 164.20</p>	試験濃度 100 mg/L	試験濃度 mg/L	試験濃度 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
純度*1 92.4%	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
不純物*1 (物質名, 含有率)	試験結果	試験結果	試験結果
残り 7.6%は不明	BOD -3, -3, -2 (0)%	間接	間接
融点 測定不可 (融点は-100~25℃に存在しない)	TOC 2, 3, 1 (2)%	試験結果	試験結果
沸点 測定不可 (210℃以上で変化)	HPLC 91, 91, 90 (90)%	直接	直接
蒸気圧 8.15×10 ⁻¹ Pa (20℃)	審査部会 第77回	審査部会	審査部会
密度	20年 7月25日開催	年月日開催	年月日開催
LD50	判定	判定	判定
IRチャートの有無 (有)・無	備考	備考	備考
用途*2 合成樹脂、脱水剤、乾燥剤	1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100%	※試験液を直接分析機器に導入。	・被験物質は試験液中で加水分解し、被験物質の残留率は9~10%で、3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオール(局方, log Kow = 1.41*3)が生成し、(汚泥+被験物質)系で78~82%残留した。(汚泥+被験物質)系では構造不明の変化物Aが2%生成し、残留した。また、HPLCクロマトグラム上の保持時間は被験物質、変化物A及び3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオールの極性が最も低い。
生産量*2 (16年) 製造及び輸入 10,000~100,000 t未満	2. 実施機関	・財団法人 化学物質評価研究機構	 <p>変化物A</p>
試料 購入先 Aldrich Chemical	3. 特記事項	・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	
経済産業公報発表年月日			

*1 Aldrich Chemical 添付資料による。 *2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。 *3 Kowwin v 1.67 による計算値。